

# 令和8年度 学校経営方針

令和8年4月1日  
江戸川区立大杉第二小学校  
校長 浅山 佳一

## 1 はじめに

江戸川区教育大綱及び江戸川区教育委員会の教育目標に基づき、未来を担う子供たちの心身ともに健やかな成長を願い、教育活動を推進する。教職員は常に、一人一人の子供の幸せと、保護者の思いや願いに心を寄せ、使命感とやりがいをもって子供の成長を支え、子供の姿を通して、保護者・地域に信頼される学校をつくる。

## 2 学校経営の基礎となる考え方

- ・子供は、大人と比べてできないことが多く、失敗をする存在だという認識のもと、教職員は、成長を促す温かい視線で児童を見つめる。また、児童を一人の人間として尊重し、思いや考えを受け止め、児童と共に考え、成長を支える。
- ・児童は、自分の思いや考えを、他者に的確に伝えられないこともある。保護者は児童の幸せを守る存在であり、教職員は、指導が保護者の思いや願いにこたえるものであるかを常に考え、保護者と協力して教育活動に取り組む。
- ・学校は地域の中にあり、児童は地域で生きていく。学校は、地域で生きていくための学習活動を推進するため、地域に教育資源の提供をお願いする。学校教育の中で成長する児童の姿を通して、地域からの信頼を得られるようにする。

## 3 学校の教育目標（目指す児童像）

- よく考え進んで学ぶ子
- 思いやりのある子
- 明るく元気な子

→ 学びの楽しさを味わいながら基礎・基本を身に付け、豊かな人間関係を築き、安心して学校生活を送ることができる子

## 4 目指す学校像

「確かな学力・豊かな心・一人一人が輝く杉二の子  
～学校大好き・友達大好き・先生大好き～」

児童も教職員も、違いがある人間が集まっているからこそ、多くのことを学び、成長できることを実感し、自分の成長を認め、また、互いに認め合いながら、誰もが安心して、自信をもって過ごすことができる学校を目指す。

## 5 教育目標の達成に向けた方針

### (1) よく考え進んで学ぶ子

- ・事象や場面、問題等から課題を見出し、児童が目的や目標を明確にもち、学習に取り組めるようにする。課題について自分の考えをもち、他者と交流する中で考えを深めた上で、課題について分かったこと、できるようになったことを自覚できるようにする。
- ・学習過程において、情報の収集、考えの表現・発信の方法を児童が選択できるようにする。特に、ICT（1人1台タブレット端末等）について、情報モラルを身に付けると共に、各教科等の学習で活用できるようにする。
- ・各教科等の学習の基礎となる国語の力を養うため、読みたい本を様々な時間に読める環境を整え、読書の習慣化を図る。また、漢字の読み書きや計算は、習熟度に応じて、取り組み方や量を工夫しながら、確実に身に付けられるようにする。
- ・第3学年以上で、専科教員だけではなく、学級担任も学年全体の教科を担当する教科担任制を実施し、充実した教材研究に基づく分かりやすい授業を積み重ねることで、児童の学力の向上・定着を図る。

### (2) 思いやりのある子

- ・話し手や周囲に意識を向け、話を最後まで丁寧に聞くことを繰り返し指導することで、自己中心的な世界観から、集団の中の自己を認識する世界観への成長を促し、自他の生命と人権を尊重する心、人として望ましい言動や善悪を正しく判断できる規範意識を醸成する。
- ・気持ちや考えを言葉で伝えることで、学校生活における問題が解決できるという経験を積み重ねさせ、誰もが適切な言葉と方法で伝えることができる風土を築く。特に、児童が教職員に気持ちや考えを伝え、受け止めた教職員が共感したり共に考えたりできる信頼関係を大切にする。
- ・いじめや暴力等は決して許されないことを指導する。いじめ等を認知した際は、事実確認を迅速に行うとともに、関係児童の気持ちを聴き取った上で、児童の成長に向け、指導の方針や進捗状況を保護者に丁寧に説明し、情報共有をする。
- ・特別活動等においては、児童の思いや願いを生かし、活動内容や方法を児童が考え、教職員がそれを支える場面を増やしていく。その過程で、様々な人と関わり協力することの大切さを学び、自分たちの行動で学校を変えることができるという実感をもてるようにする。

### (3) 明るく元気な子

- ・充実した学校生活の根源であり、命の源である、生活リズム、運動、食事、睡眠をはじめとした自分の健康に関心をもち、よりよい生活習慣を形成しようとする態度を育む指導を、家庭と協力して進める。
- ・集中して学習に取り組み、安全に生活するためには、持ち物や教室が乱れなく、整っていることが必要であるため、整理整頓の指導を充実させる。持ち物や身の回りの整

理整頓の仕方について全校で共通理解を図り、生活の中で習慣的に実行できる環境を整える。

- ・中休みや昼休みには、校舎内外での多様な過ごし方を認めつつも、外遊びを推奨する。友達と体を動かす楽しさを感じたり、体を動かさなくても、屋外の空気や日の光の下で友達や教職員と過ごす気持ちのよさを感じたりできるようにする。
- ・体力調査の結果を基に、伸ばしたい力に関する運動を体育科の学習で意図的に取り入れる。体育大会や長距離走大会では、目標をもって取り組み、結果を出すことのうれしさや、協力して取り組むことの楽しさを感じられるようにする。

## 6 求める教職員像

- ・児童を温かい視線で見つめ、児童の健やかな成長と幸せ、保護者の思いや願いに心を寄せ、教育目標の達成のために自己の資質・能力を高め、成長を続けようとする教職員
- ・毎時間の授業を教育活動の要と捉え、児童の思考の流れや心情を踏まえた授業の計画・準備を充実させ、日々の授業の成果と課題を更なる改善につなげようとする教職員
- ・時間等、限られた資源を使って、児童への教育の効果をより高めていくために、前例にとらわれずに校務の改善を図り、組織力で支え合いながら職務を遂行する教職員
- ・一社会人として、更には公教育を担う者としてふさわしい言動を意識するとともに、公務員として、文書作成等の能力を身に付け、また、服務規律の厳正に務める教職員

## 7 危機管理

- ・学校給食の安全管理、自然災害発生時の対応、不審者への対応等、想定される危機に対しては、マニュアル等による対策の教職員への徹底を図る。
- ・その他、予期できない事故等に対しては、報告・連絡・実行の体制の共通理解を基に、被害を拡大させないための対策を組織的に実行する。

## 8 働き方改革

- ・教職員が、私生活を充実させることと、勤務時間を、児童への教育の効果を高めるための職務に集中する時間とし、職へのやりがいが高めることを旨とする。
- ・継続してきた教育活動について、時代に合わなくなったもの、児童・保護者の負担が大きいもの、教育の効果が薄いもの等は、思い切って廃止したり、縮小・整理・統合したりすることも決断する。
- ・各種校務は、ICTの活用等により効率化の徹底を図るとともに、必要性の低いものは廃止する。また、教育職員が担う必要性が低いものは、教育職員以外の会計年度任用職員に担当させる。
- ・実施にあたっては、関係者への影響を十分に考慮し、進め方を慎重に検討するとともに、関係者へ、実施することの意義を丁寧に説明し、理解を得られるようにする。